

## 映像配信のアーカイブ実験室

2022 年度活動報告



藤浩志氏（右）・黒川岳氏（左）・引き上げられた二体のハニワの記念写真

本プロジェクトはオンライン配信を通じたアーカイブの利活用や共有のための新しい方法を実験することを目的としている。2020年度のコロナ禍においてオンラインでのライブ配信等の需要が高まり、その可能性を探求するために本プロジェクトは構想された。あわせて、沓掛キャンパスで撮影された写真を収集し、オンライン上で公開する取り組みも進めている。

2022年度は、沓掛キャンパスの日常の雰囲気伝えられるよう、学内の出来事を記録したドキュメンタリー映像の制作と配信に取り組んだ。題材となる出来事には、食堂前の池に沈むハニワの引き上げ作業（2022年5月25日）を選んだが、このハニワは卒業生で美術家の藤浩志氏が1985年の大学院修了制作の一環として制作したもので、大学の一部のように歴代の学生たちに親しまれてきたとされている。藤氏が80年代当時の自作として「関西の80年代」展（兵庫県立美術館、2022年6月18日～8月21日）に出展するためハニワを池から引き上げるという情報が入り、学内で調査をしたところハニワがもう一体沈んでいることがわかった。もうひとつのハニワは学生たちが2015年の「総合基礎実技」の授業課題で藤氏のハニワをリサーチして制作したもので、二体のハニワの結婚式が挙げられて池の中に沈められたという。学内でなかば伝説化していたこの二体のハニワをめぐるエピソード自体を、沓掛キャンパスで綿々と受け継がれてきた制作実践を象徴するものにとらえ、それらの引き上げ作業のドキュメントを制作することとした。

映像は、ふたつめのハニワを制作したメンバーの一人でもある卒業生で映像作家の河原雪花氏と協働し、Ufer! ART DOCUMENTARY の岸本康氏をアドバイザーに迎えて制作している。池の周辺に多くの人が集まって見守り、作業を手伝う様子まで収められるよう複数のカメラで多視点的に撮影した。また、池の中に入って作業する臨場感を伝えるため、実際の引き上げ作業をする藤氏と黒川岳氏（本学非常勤講師）には防水のアクションカメラを着用してもらった。それらの複数カメラで撮影した映像をモンタージュし、約6分の短い映像にまとめて芸術資源研究センターのYouTubeチャンネルにて公開した（<https://www.youtube.com/watch?v=jtlwC18IXrA> 2023年1月11日時点での再生回数は1008回）。

映像配信URLの広報についても、大学関係者や藤氏とネットワークのある方に知っていただけるように周知方法に工夫を加えている。ハニワ作品の出展された兵庫県立美術館や、学内の複数箇所ですポストカード型の広報用フライヤーを配布し、カードにあるQRコードをスマートフォンで読み込んでもらうことで配信サイトへの誘導に繋がった。多くの方のSNS等で紹介してもらい、また岸本氏からオンライン上で閲覧してもらいやすくするためのアドバイスをいただいた成果もあって、広く知っていただけたと考える。今後も映像等のオンライン配信の取り組みを様々な形で試みることで、アーカイブの共有方法の選択肢を広げていきたい。

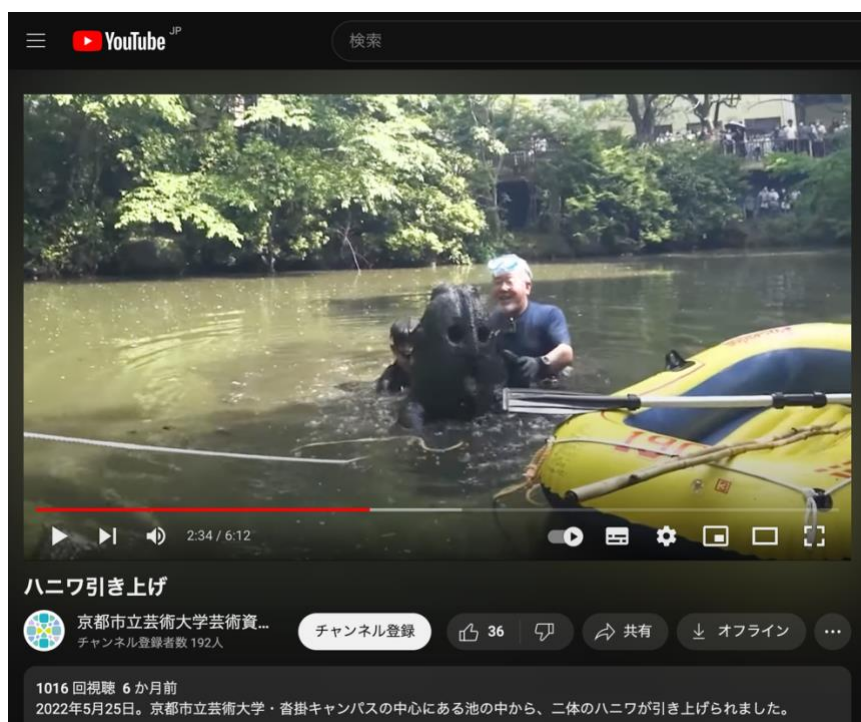
埴美智子



広報用フライヤー表面



広報用フライヤー裏面 \*



「YouTube」動画配信サイトの画面（動画制作：河原雪花、写真：清水花菜）